

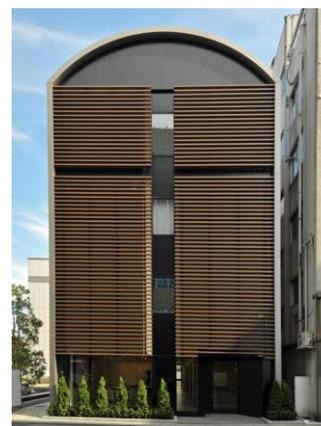
**HUMANE
INTERNATIONAL
NETWORK
(HINT)**

- Page1: 第37回エポペ・クリスマス2016のご案内
Page2-3: 真生会館・岩下神父・ネラン神父・エポペ・HINT
Page4-6: アフリカ事業報告1・2
Page7-8: HINT講演会「世界に広がる感染症の現状」採録(3)
Page9: アフリカ映画の窓
Page10: 2016年NPO法人HINT総会報告
Page11: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
Page12: 事務局からのお知らせ

第37回エポペ・クリスマス降誕ミサ & チャリティパーティー2016のご案内

後援：東京都認証NPO法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク（HINT）

会場：**真生会館**（JR信濃町駅徒歩0分 改札出て右に曲がりすぐ 地図：12頁参照）



日時：2016年12月23日（水・祝）17：00 開場 17：30 開始
生まれ変わった真生会館、3階の「ネランホール」の見学もお楽しみに！

降誕ミサ（4階チャペル）：17：30～18：30

（司式：深水正勝神父 東京教区司祭／元真生会館館長）

チャリティパーティー（地下1階）：18：30～20：30

会費：5,000円（クリスマス・バイキング料理・小学生2,000円・未就学児無料）

★お申し込みは「エポペ」のホームページ（<http://www.epopee.co.jp>）からお
願います。手続き確認後、ご予約確認メールをお送りします。お食事の準備と
スペースの都合上、12月15日（木）までにお申し込みをお願いいたします。

お問い合わせ：エポペ・チャリティクリスマス実行委員会（070-5565-5721 留守電対応）

真生会館のはじまりと岩下神父 G・ネラン神父とエポペ、HINTへ

HINTの母体となったエポペの創立者、ジョルジュ・ネラン神父は学生の指導にも熱心で、かつて、真生会館の理事長として辣腕を振るっていたことでも知られます。1973年、このネラン理事長を中心に建設された東京・信濃町の真生会館ビルが生まれ変わり、2016年10月に、新たな会館が落成されました。

真生会館では、いままで以上にカトリック教会の学生センターや、社会人の生涯養成・学習の場として、多くの期待を担って活動が始まっています。この機会に会館やネラン神父をあらためてご紹介いたします。



岩下壮一師

岩下神父と真生会館

真生会館は、岩下壮一神父が実業家だった父親から受け継いだ資金で信濃町に土地を購入し、1934年2月に財団法人聖フキリッポ寮として設立されたのが始まりです。カトリックの理念に基づいた青少年の育成を続け、1952年2月からは、財団法人真生会館（現・一般財団法人真生会館）として、学生の学びの場、社会人の生涯学習の場として活動を続けてきました。

この会館の基礎となった岩下師は、1919年、文部省在外研究留学生としてカトリック哲学・神学研究のため、当時はまだ珍しいことだったヨーロッパ留学へと向かいました。多くの出会いを経てカトリック司祭（神父）に叙階。帰国後は、大神学校での講義や公教青年会での学生指導、大学や高等学校での哲学の講義を行うなど、当時の教会の精神的な指導者の一人でした。その活動の一つである聖フキリッポ寮は、カトリック学生達の寄宿舎を兼ねて彼らに宗教教育を提供する目的をもっていました。寮の運営に当たっては、後に哲学者として知られる吉満義彦が寮監を務めたこともあります。

神山復生病院

また、不二農園（現・学校法人聖心女子学院直営）の経営を父親から引き継ぎ、カトリック研究社を設立、福音書の講義や暁星中学への公教要理解説、カトリック書籍の出版も行っています。

母校の東京帝国大学に帝大カトリック研究会を創設、学生を指導し、その後多くの大学にカトリック研究会が生まれる先駆けともなりました。現在の「カトリック新聞」の前身となる月刊誌『公教青年會々報』を発行、当時の代表的な月刊誌であった「聲」の経営に当たっていたことでも知られます。

そしてさらには、遠藤周作著『わたしが・棄てた・女』のモデルになった井深八重が、最初の看護婦、初代婦長として働いたことでも有名なハンセン氏病患者のための神山復生病院に赴きます。1930年には第6代院長に就任、10年にわたる献身的な働きを続け、時代を駆け抜けるように51歳の若さで帰天しました。



神山復生病院 復生記念館

真生会館とネラン神父

フランス・リヨンの豊かな家庭に生まれたジョルジュ・ネラン神父は、第二次世界大戦への不穏な空気の中でサン・シール陸軍士官学校に入学し、卒業すると間もなく終戦を迎えました。退役し、召命を感じて神学校に入学、カトリック司祭（神父）となります。戦後初のフランスへの日本人留学生として、フランス船マルセイエーズ号で横浜港を出航した遠藤周作、三雲夏生、三雲昂らをネラン師が受け入れたのはその頃です。

後に、この時の様子を夫の遠藤周作から聞いた遠藤順子夫人により、ネラン師は個人的に奨学金を提供して彼らを支えていたが、当時の彼らはそれを全く知らずに、師の面前で、もっと教会からのお金が必要だと不満を述べていたというエピソードも披露されています。



ネラン理事長時代に建設された旧真生会館

その後、宣教師として日本に派遣され、長崎教区から「奇跡的に」東京教区に転任、1970年に真生会館の理事長に就任しました（G・ネラン著『おバカさんの自叙伝半分』）。老朽化していた真生会館の建て直しに着手し、当時としては珍しいテナント方式を自ら提案して銀行から融資を受け、会館ビルの建築を統括します。

さらに、第2バチカン公会議（1962-65）の結果を受けて、日本におけるローマ・カトリック典礼の国語化の責任者となる長江恵司教の依頼により、『ろごすーキリスト教研究叢書』（1-13号、紀伊国屋書店、1959年 - 1964年）の編集・発行人となりました。公会議の精神である、開かれた教会や教会の現代化を実践すべく、その精神を日本に広めるための役割を担うこととなります。

ネラン神父とエポペ

こうしたネラン神父のさまざまな活動から直接、間接に影響を受けた人々は数多く、その中の一人、幸田和生東京教区補佐司教は、当時の神学校の図書室で「わたしはこの（ネラン師の）論文を読んで、こういう司祭にならわたしもなりたいたいと思った」と語っています（ジョルジュ・ネラン神父葬儀ミサ説教）。

渋沢・クローデル賞選考委員、ネラン塾主宰、東京大学、慶應義塾大学、立教大学などの非常勤講師、朝日カルチャーセンター・キリスト教講座講師、神学研究、翻訳など幅広く活動し、1980年にはサラリーマンに福音を伝えるために出会いの場を求めてエポペを創設。以来30年の長きにわたり、学生生活の傍らパーティーとして、宗教や生きがいなど、数多くの人々の話に耳を傾け、対話を続けました。そして、毎週日曜日には歌舞伎町の一角に借りたマンションでミサをささげながら、数多くの人々

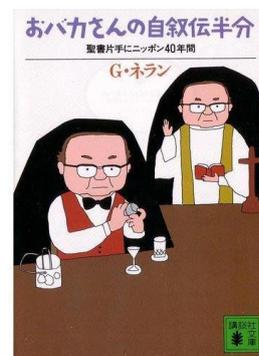
をキリストとの出会いに導きました。

師の晩年、親しい司祭仲間であった三好満神父（公益財団法人東京カリタスの家／カトリック東京教区の福祉機関）がネラン神父に、あなた自身は日本での宣教の成果をどう思っているのかと率直に問うと、「私はエポペを創った」と一言だけ述べたという逸話が残っています。

後にカトリック作家として有名になった遠藤周作とは生涯にわたる親交があり、青年ガストン・ボナパルト（小説『おバカさん』、『悲しみの歌』、『深い河』に登場する人物）は、ネラン師への感謝の表れであり、師がモデルだったことはよく知られています。エポペのイベントなどにも度々参加・協力をされていた姿を覚えている方も多いことでしょう。

エポペとHINT

1984年、アフリカ・ルワンダで大量虐殺事件が勃発したのを機に、当時のエポペ代表（カトリック東京教区元国際司牧委員／本会代表・進藤）が、カリタスジャパン（日本カトリック司教協議会・社会司教委員会の機関）から第2次ブカブ救援チーム団長・コーディネータとして現地の難民キャンプに派遣されました。それを契機に、各方面に広がるエポペに集う人々のネットワークを生かし、数百名が主体となってNGO団体（現・東京都認証NPO法人）HINT／ヒューメイン・インターナショナル・ネットワークが創設されることになりました。折しも、その直後に阪神淡路大震災が発生。NPO（非営利団体）という言葉がまだ新しい時代に、サラリーマンやOLを中心としたボランティア団体が活動を開始することになったのです。創設21年目を迎えた現在では、教育・医療支援を中心に、さらに多くの方々のご協力をいただきながら、アフリカのコンゴ（民）や、アジアではベトナムへと、支援の輪が広がっています。



G・ネラン著『おバカさんの自叙伝半分
●聖書片手にニッポン40年間』（講談社文庫）

アフリカ事業報告 1

次年度のアフリカ・コンゴ民主共和国での奨学金事業として例年通りの年間予算 USD5,500 を決定いたしました。また、5月31日に届いた2016年1-4月の精算書と領収書について精査し、適切に執行していることを確認しました。皆さまの温かいご支援を何卒よろしくお願いたします。

学用品を渡すタデー氏とスタッフ（写真右）
 9月4日付の学用品受け取りのサイン（下）と奨学生たち（写真下）



HINT AFRICAN PROJECT
 D.R. CONGO - BUKAVU PROGRAMME
 REPORT OF FURNITURE DISTRIBUTION SCHOOL YEAR 2016 - 2017

N°	NAME AND POST NAME	SEX	FORM	SCHOOL NAME	EX. 200 PGS	EX. 96 PGS	EX. 32 PGS	CALLI GRA PHIE	REGI STRE	J. DE CLASS	EX. DESS IN	EX. KASUKU	MATHS SET	BALL PEN	LATT. PLAS	SIGNATURE
A. PRIMARY SCHOOLS																
01	Gérard FUNGAFUNGA	M	6 th	EPA. YUYU	05	07	05	01			01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
02	Jordan ISHARA	M	6 th	C.S. La Sagesse	05	07	05	01			01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
03	KEKA Thaddée	M	6 th	EP. HODARI	05	07	05	01			01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
04	LUZINDYA MUKAMB. Germain	M	3 rd	Lycée International	05	05	05	01			01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
05	OMONGE Sefi Françoise	F	5 th	E.P. HODARI	05	07	06	01			01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
06	SALAMA Bergana	F	5 th	EP. IBANDA	05	07	06	01			01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
07	Victorine MUSAGHI	F	2 nd	C. Scolaire la REJOUISSANCE	05	07	06	01			01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
B. HIGH SCHOOLS																
01	Agnès MAHANGO	F	5 th M.P.	EDAP/SP	07	10	05		01	01		10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
02	Augustine MWAYUMA	F	6 th H.P.	C.S. La Sincérité	07	10	05		01	01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
03	ASINA Mlungu	F	2 nd C.O.	Institut FARADJA	07	06				01		10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
04	Hélène WABULA	F	4 th SC.	Institut KASALI	07	06	05		01	01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
05	Junior MUNGUMA	M	5 th SC	Institut MUNZHIRAA	07	06	05		01	01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
06	KANKISINGI Elenne	M	4 th Electr.	Institut du SC naire	07	10	05		01	01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
07	Lea ALIMAS	F	2 nd C.O.	Institut Mgr BYA ENE	06	06	05			01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
08	MISHUBO Kyengensubi	M	2 nd C.O.	Institut KASALI	06	06	05			01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>

②

09	MUSAGHI Ktangilwa Junior	M	5 th THS	Institut BAHATI	07	10	05		01	01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
10	OLEMBO Omba R.	F	3 rd H.P.	Institut ELIMU	06	06	05			01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
11	OLEMBO Shako Ricardo	M	5 th SC	Institut ALFAJIRI	07	10	05			01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
12	SIFA Mulumooderh	F	4 th THS	Institut TEBURA	07	06	05			01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
13	WANY Musaghi	F	1 st C.O.	Lycée WIMA	06	06	05			01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
14	ZAINA Etunga	F	3 rd	C.S. La Vérité	06	06	05			01	01	10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
15	Gisele SINDJE M.	F	6 th Litt.	Lycée WIMA	06	06	05					10	01	05	01	<i>[Signature]</i>
16	YOHANI Lusembu	G	4 th Litt.	Institut de BUKAVU	06	06	05					10	01	05	01	<i>[Signature]</i>



Ainsi fait à Bukavu. Le 04/09/2016



アフリカ事業報告 2

アフリカのコンゴ民主共和国（以下コンゴ）の東部の町ブカブで奨学金事業を担当するコーディネータのタデー氏から送られてきた、次期コーディネータ予定者の医師ムサギ・アレン氏と奨学生たち、現地の状況についての報告書を掲載いたします。この地域での20年に及ぶHINT奨学金の地道な継続により、医師や教師、ビジネスマンや公務員が生まれるなど、大きな成果をあげています。

ムサギ K. タデー

親愛なるHINTの皆様へ、次期コーディネータ予定者のムサギ・アレン博士の紹介、学生の状況、現在のブカブ市の状態をご報告いたします。



ムサギ・イズンボ・アレン氏

A. アレン博士に関する紹介

1. ムサギ・イズンボ博士は、1986年、南キブ州のブカブで生まれました。彼はHINTの奨学金で、初等中等教育の勉強を終えた後、2015年12月10日にUB(Université Officielle de Bukavu)で医学博士号を取得しました。

彼はフランス語、スワヒリ語のように英語を読み、書くことができます。話すのはさほど上手くありません。

2. 活動：ブカブから西に約400キロメートル離れたムンゲンベ/シャブンダ・クリニックという

総合病院の医師として働いています。彼は、医療相談、手術、外傷、性的暴力、HIV、その他の熱帯病に関するカウンセリングを扱っています。

3. 考え方：自分の国の国民、特に未来を担う若者の発展を不可欠と考えています。

4. 目標：当面は、麻疹、ポリオなどを防ぐために患者のケアと衛生条件を改善することです。

5. 夢とビジョン：

－ HINTの支援によって身に着けた学術教育や専門的な経験、知識を、責任をもって社会全体に伝え、特に病理学分野で、コンゴの人々に知識を伝えることを夢見ています。

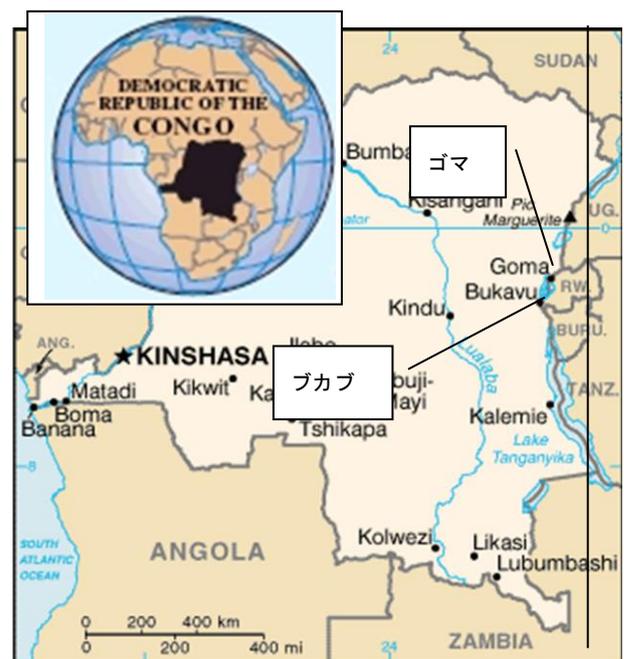
－ 保健衛生におけるHINTのアクションを継続して、このシャブンダ地域に必要な保健クリニックを設立すること。

－ シャブンダ地域におけるHINTの奨学金の活動を拡大すること。

－ 外科手術領域の専門化を通じて、自分の専門的な経験を豊かにし、人々を救援すること。

6. 宗教：キリスト教

7. 哲学：いかなる状況においても、宗教、民族、種族、人種などを差別することなく患者にサービスを提供すること。



コンゴ民主共和国 ブカブの位置

8. 好きなスポーツ：サッカー。チャンピオンズリーグでバルセロナチームのサポーターです。T.P. ナショナルクラブとオリンピッククラブ・ムーガノ（ローカルクラブ）のサポーターでもあります。水泳が好きです。静かな音楽やズーク音楽よりも、コンゴの民族音楽と踊りが好きです。

好きな食べ物：チーズ、魚、野菜、バナナ、パイナップル、グリーンアップルが好きです。

9. 健康状態：良好です。

B. 学生の状況

私たちの生徒の現状は、以下の理由からあまり良くありません。

－ 多くの教師は中央政府から給料を支給されず、両親が教師の給与を支えることが義務付けられています。

－ 国のお金（コンゴフラン）の評価が下がったため、学校費用の支払いは現在米ドルで行われています。

－ 学校は必要に応じて学費を引き上げています。

C. 写真（一部省略）

学生たち、アレン博士、スクール、スーパーマーケットおよび靴の写真：E.P. 1 イバンダ小学校。

D. 都市の現状

私たちの国、コンゴには大きな緊張や政治危機があります。なぜなら、

－ ジョセフ・カビラ大統領の最後の任務は2016年12月19日に終了する予定です。

－ 選挙は、2016年9月に憲法に基づいて新大統領を選出するべきでした。

－ ところが、G カビラ大統領は選挙ではなく、トーゴのエデン・コドジョ氏によってできた「対話」を開始し、国を破壊しかねない大きな政治問題について議論し、この「対話」「Dialogue」会合から、新首相が指名され、2018年4月に大統領選挙を設定するとのことです。

しかし反対勢力は、「Dialogue」の政治的合意に署名していません。そのため、反対勢力は2016年12月20日にジョセフ・カビラ大統領が辞任するよう最後通牒を出しており、応じなければ、大統領を暴力によって国外に退去させるとしています。

現在、宗教当局は、近い将来、わが国が平和的な選挙を行うことができるように、三者を和解

させるために交渉を行っています。国連安全保障理事会のメンバーと欧州連合の代表団も、その目的のために来ました。

しかし9月19日と20日に、平和的なデモ行進をしている間に、警察官に50人以上が殺されたので、私たちは神に祈っています。

したがって、わが国は、問題の解決が遅くならないように対処することを余儀なくされています。そうでないと、社会的、政治的および経済的な状況が酷くなり、ますます生活が耐えられなくなることとなります。一部の金持ちは、最悪の状況を避けるために出国し始めるでしょう。

良い協力を願って 敬具

ムサギ K. タデー（署名）

会費・ご寄付 お振り込みのお願い

HINT の活動は皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用していただくか、下記口座へお振り込みくださいますようお願いいたします。

賛助会員：1口5,000円から・学生会員：1口2,000円。ご寄付の場合はご随意にお願い申し上げます。

■郵便振替：00120-1-596327

口座名義：特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行：

記号 10010 番号 26990711

（他銀行から振り込む場合 店名：008

種目：普通 番号：26990711）

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行：新宿支店

普通預金：3390001

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

HINT 講演会 「世界に広がる感染症の現状」(3)

アフリカを中心に広がったエボラウイルスの感染拡大は記憶に新しいところですが、マーズやサーズ、マラリアやデング熱、さらにはジカ熱の脅威もあります。収束させるための方策とは何かを、感染症の専門家である狩野繁之氏からお話をうかがいました(2015年6月20日、於・新宿区落合第一地域センター)。好評連載3回目。



狩野講師のお話

人間が動物の世界を侵食

(前号までにお話したように) アフリカのエイズであれエボラであれ、それらは本来、すべて動物由来のものです。動物の間で流行っているものが、人が動物のテリトリーを侵した結果、人間にも感染するようになったのだろうということが言えます。

身近なところでは、韓国と北朝鮮の間にあるDMZ(非武装地帯)の近辺で三日熱マラリアが流行している地域があります。住民や兵士が罹っており、このマラリアは、夏の間だけ流行して、冬の間は病原体は肝臓で冬眠します。実は日本にいるハマダラカとこの地域にいるハマダラカは同一種です。

ですから、昨年も代々木公園のデング熱の発生で問題になったように、夏の間には患者さんが日本に来て、日本にいる蚊を媒介して他の人に感染すると、一度冬眠してから、来年患者が発生することになります。その意味では世界的に流行している感染症に罹る危険性はデング熱だけではありません。

新興感染症・再興感染症

最近新しく認知され、局地的にあるいは国

際的に公衆衛生上の問題となる感染症に、新興感染症(Emerging Infectious Disease)というのがあります。寄生虫性、細菌性、ウイルス性といろいろありますが、ウイルス性にはサーズ(SARS/重症急性呼吸器症候群)、鳥インフルエンザ、ウエストナイル熱、エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、後天性免疫不全症候群(HIV)などです。

それに対して、再興感染症(Re-Emerging Infectious Disease)とは、既知の感染症で、その発生が一時期は減少していたが、再び注目されるようになった感染症に対する総称です。抗生物質などの開発により一時期は制圧できたものの、何らかの原因で再度公衆衛生上問題となった疾患を指します。現在再興感染症に挙げられるものとして、結核、マラリア、黄熱、デング熱などがあります。

わが国では、新興感染症としてはエボラ出血熱、再興感染症としてはデング熱、さらにサーズ(SARS/重症急性呼吸器症候群)でも騒ぎましたけれど、今話題の新興感染症はマーズ(MERS/中東呼吸器症候群)です。

エボラ出血熱の原因

エボラ熱は、アフリカの最初はコンゴ民主共和国の特定地域に発生していたわけですが、現在はシエラレオーネ、リベリア、マリ、ギニアなどに集中して、現時点の状況を調べたところ、合計27,467人が感染して、11,217人が亡くなっています。死亡率40.7%です。フルーツバットというコウモリが媒介すると考えられていて、これは普通のコウモリよりちょっとかわいいのです。現地ではペットで飼っている人もいるらしくて、だけど焼いて食べちゃう(笑)。噛まれたり食べたりすることによって感染するのだろうといわれています。この生態がだんだんわかってきたのですが、一箇所ですっきりとしていなくて、アフリカ大陸内を随分と長距離に飛ぶらしくて、“渡りコウモリ”として、アフリカの広い範囲で季節的に流行させるのではないかということがわかってきました。

このようにエボラ熱の疑いのある患者さんが来ると、私たち医療センターでは宇宙服のようなスーツを着て患者さんを診ることができるベッドが4床あります。成田の赤十字病院に2床、また大阪のりんくう総合医療センターに2床、合計で日本には8床しかありま

せん。100人来たらお手あげですね(笑)。我々は一人でも発生すると、すぐ10人、100人になると考えるので、8床あっても仕方がないともいえるのですが、とりあえずは安心です。

国内の対策だけでなく、われわれの仲間が外国にも行って、正しい防護服の着方などを指導して現地における感染が拡大しないように努力しています。エボラ熱は、そんなに感染力は強くないですから、ご遺体に触ったりしなければ大丈夫です。アフリカでは、患者の家族が患者のケアをするということがあり、亡くなった後も患者と親しくするということがあり、患者は増えてしまいました。

マーズ (MERS/中東呼吸器症候群)

サーズと同じコロナウイルスによる感染症ですけれども、ラクダを殺して肝臓を生で食べたりすると罹るんですね。美味しいらしいです。僕もかつて、もう少しで食べてしまうところでしたが、流石に食べられませんでした。ラクダの尿に触れたり、なめられたり、親しくしても罹ります。ヒトコブラクダが感染源だそうです。昨日(2015年6月19日)の時点で、韓国に死亡者31人、感染者181人が発生しています。日本にもマラリアだけでなく、マーズも来るかもしれません。未だに昨日294人を自宅に隔離して、累計で2900人の接触者がいます。まだこの294人がどうなるかというところですが、毎日増えています。潜伏期が2日から14日間といわれるので、2週間隔離しておけばいいのですが、隔離が済んだ人が1万2千人で、観察が済んでいない人が200人以上いるということです。この間に日本に帰ってきてしまう不届き者もいます。実は全員わかっていますが(笑)。

この感染で20%弱の方が亡くなりますので、怖いといえば怖いです。韓国も病院が完全看護をしないで家族が患者のお世話をし、下着の取り換えをする、体を拭くというような文化があります。大変いいことなのですが、そのいいことが院内感染の環境にはマイナスになっています。実は患者181人の全員が、どこからどこにうつったか、日本も一緒になって調査をして全てわかっています。家族の中で確実にうつり、病院でうつりと、接触することによりうつります。市中も患者がふらふら歩いた形跡もあるのですが、まだ、それで罹った例はなく、かなり親しくしないと感染しない

ようなので、心配はありません。

デング熱の流行

実は世界では25億人以上がデング熱の流行地に住んでいて、毎年5千万人から1億人が感染しているという大きな病気です。熱帯地ではネッタイシマカという蚊が媒介していて、この蚊は沖縄にも生息していたのですが、つい2、3年前から見つからなくなったと昆虫学者が言っています。しかし、ヒトスジシマカというのが日本に広くいて、今年の発表では青森まで、去年は秋田まで、その前年は仙台まででした。来年は北海道まで行くかというところですよ。

ネッタイシマカの生息できる気候の限界は、年の平均気温が11度のラインですが、このネッタイシマカは年の平均気温が12度のラインにきれいに重なっていて、北海道の平均気温が12度以上になるとヒトスジシマカも一緒に北上してくるということになります。肉眼でも白い筋がわかります。この蚊はアジアではたくさん生息していて、デング熱だけでなく、西ナイル熱というアメリカで流行っているものを媒介できます。まだ日本に来ていませんが……。チクングニアというデングの仲間、黄熱というアフリカと南米だけで流行っているものもあります。

日本でも犬フィラリア症といって、本当は犬が罹る病気なのですが、人に感染すると肺に入って、結核または進行性の肺ガンそっくりに見えます。これは大変だということで肺葉をそっくり切除ということになって、病理解剖すると寄生虫がいただけということがあります。

(次号に続く)

【講師プロフィール】

狩野繁之 (かのう しげゆき)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長。
群馬大学医学部卒、同大学院博士課程(寄生虫学専攻)修了。同大学寄生虫学教室助教授を経て、1998年より現職。筑波大学連携大学院教授、長崎大学客員教授、フィリピン大学公衆衛生校客員教授、ラオス国立パスツール研究所寄生虫研究室長、日本熱帯医学会理事長、認定特定NPO法人Malaria No More Japan 理事、カトリック社会問題研究所幹事などを併任。
趣味：書道、マラソン。

アフリカ映画の窓

アフリカ協会特別研究員、元コンゴ民主共和国大使による最新映画のご紹介です。

高倍宣義

2011年のアラブの春から5年経った。シリア・イラクでの戦争が米口の利害、宗派・民族対立が複雑かつ根深くからみ、周辺国に数100万の難民が生まれた。また、100万を超える人々がトルコを經由してヨーロッパに移動。地中海を渡る人たちも絶えない。

イスラム過激派勢力が引き起こした大規模なテロ事件や押し寄せる難民を前に、ヨーロッパを律する非宗教性が揺れ、アイデンティティが脅かされ、英国のEU離脱やトランプ米大統領誕生となった。世界が大きく変わりつつある。そんな視点からも映画を見たい。

最近の映画はアフリカを舞台とせず、ヨーロッパやアメリカ社会に生きるアフリカ系の人々を取り上げたものが増えた。まず新年に公開される2作品から。

★ロシュディ・ゼム監督作「ショコラ～君がいて、僕がいる～」Chocolat (2015/フランス)

列強が植民地拡大に明け暮れていた100年以上前のフランスは、黒人に対する偏見・蔑視・差別が当たり前だった。

本作品は、一世を風靡した芸熱心な白人芸人（ジェームス・ティエレ）とコンビを組み差別を逆手にパリで人気を博し、やがて忘れられた奴隷上がりの黒人芸人ショコラ（オマール・シー）のほろ苦い生涯を描く。1月21日（土）よりシネスイツチ銀座から全国ロードショー。



(C) Gaumont / Mandarin Cinéma / Korokoro / M6 Films



★ジャンフランコ・ロージ監督作「海は燃えている～イタリア最南端の小さな島～」Fuocoammare/Fire at Sea (2016/イタリア・フランス)

アフリカから難民がボートで目指すのは地中海に浮かぶイタリア領ランペドゥーサ島だ。フランシスコ教皇が就任後最初に訪れたことでも知られる。

難民が着き、送り出される日常が20年も続く島に暮らす子供、家族や医師の穏やかな生活を静かに収めたドキュメンタリー。2月11日（土）よりBunkamuraル・シネマから全国ロードショー。



(C) 21Unoproductions
_Stemalentertainment
_LesFilmsdIci_ArteFranceCine´ma

★ジッロ・ポンテコルボ監督作「アルジェの闘い」La Battaglia di Argeri (1966/イタリア＝アルジェリア)

130年間のフランスの植民地支配を終わらせたアルジェリア独立戦争（1954-62）の古典のデジタル・リマスター版。アルジェのカスバとその周辺で繰り広げられる独立闘争と、それを抑えようとするフランス当局との対峙が、時の経過と共に変貌する様は圧巻。全国順次公開中で、近日中に下高井戸シネマに。

2016年総会報告

下記のとおり、東京都認証NPO法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク（HINT）の2016年総会を開催しました。すべての議案が承認可決されましたので、ここにご報告いたします。

記

- 日時：2016年6月25日（土）18：30～19：30
- 場所：新宿区戸塚地域センター 会議室3
- 正会員数18名 出席会員数11名

1. 2015年度事業報告

詳細は事務局保管の議事録ご参照。

2. 2015年度決算報告

右記をご覧ください。

3. 2016年度理事改選

代表	進藤	重光（再任）
事務局長	石田	達也（再任）
事務局長代行	長野	圭子（再任）
	高橋	章（再任）
	桐山	泰証（再任）
	酒井	匠（再任）
	谷口	雅司（再任）
監査	武井	秀彦（再任）

4. 2016年度事業計画

詳細は事務局保管の議事録ご参照。

5. 2016年度予算計画

次ページをご覧ください。

6. 2016年度総会報告

21年目の新たな節目を迎えた本会の目標として、地道に続いている現地との信頼関係をさらに密にし、子どもたちの様子を具体的にお伝えするために、ITを駆使したインターネット上での積極的な発信と、YMCAやキリスト教会など他団体との協働が確認されました。世界的な厳しい経済状況を踏まえて、新たな会員に対するアプローチのために、さまざまなイベントの企画も検討して参ります。また、後任のアフリカ現地コーディネータ（ムサギ・アレン氏）の引継ぎについても熱心に話し合わせ、現地監査人の必要性や連携強化の具体策が話し合われました。

2. 2015年度決算報告

2015年5月1日～2016年4月30日 単位：円

I 経常収益	
1 受取会費	
正会員受取会費	326,000
賛助会員受取会費	593,000
2 受取寄附金	
受取寄附金	16,384
3 受取助成金等	
受取補助金	0
4 事業収益	
普及啓発事業収益	108,390
5 その他収益	
受取利息	12
経常収益計	1,043,786
II 経常費用	
1 事業費	
(1) 人件費	0
(2) その他経費	
経済的支援事業	
奨学金	658,678
保健衛生支援	40,000
福利厚生費	125,060
送金手数料	18,500
普及啓発事業費	
出展料	0
原材料費	20,216
会議費	0
講師謝礼	20,000
雑費	0
広報事業費	
通信費	34,680
印刷費	60,348
消耗品費	6,145
その他経費計	983,627
事業費計	983,627
2 管理費	
(1) 人件費	0
(2) その他経費	
通信費	82,239
会議費	11,792
消耗品費	108
印刷費	0
雑費	0
その他経費計	94,139
管理費計	94,139
経常費用計	1,077,766
当期経常増減額	-33,980
税引前当期正味財産増減額	-33,980
法人税、住民税及び事業税	0
当期正味財産増減額	-33,980
前期繰越正味財産額	40,485
次期繰越収支差額	6,505

5. 2016年度予算計画

2016年5月1日～2017年4月30日 単位：円

I 経常収益	
1 受取会費	
正会員受取会費	180,000
賛助会員受取会費	410,000
2 受取寄附金	
受取寄附金	200,000
3 受取助成金等	
受取補助金	100,000
4 事業収益	
普及啓発事業収益	200,000
5 その他収益	
受取利息	1,000
経常収益計	1,091,000
II 経常費用	
1 事業費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
経済的支援事業	
奨学金	700,000
福利厚生費	100,000
保険衛生支援	100,000
送金手数料	16,000
普及啓発事業費	
出展料	6,000
原材料費	2,000
会議費	2,000
講師謝礼	20,000
雑費	
広報事業費	
通信費	35,000
印刷費	20,000
消耗品費	2,000
その他経費計	1,003,000
事業費計	1,003,000
2 管理費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
通信費	84,000
会議費	8,000
消耗品費	1,000
印刷費	1,000
雑費	505
その他経費計	94,505
管理費計	94,505
経常費用計	1,097,505
当期経常増減額	-6,505
税引前当期正味財産増減額	-6,505
法人税、住民税及び事業税	0
当期正味財産増減額	-6,505
前期繰越正味財産額	6,505
次期繰越正味財産額	0

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿 (2016. 5. 1-2016. 10. 31・順不同・敬称略)
--

カトリック赤羽教会チャリティーコンサート
実行委員会

村上 夫光子	品田 和之
高倍 宣義	高澤 佳代乃
岸田 万紀子	築木 純夫
長本 孝一	石間 裕
春日井 明	中山 善四郎
末永 秀雄・美津代	藤井 記雄
原口萬治・敦子	長野 圭子
市川 幸一	小林 貞
佐藤 健一	山田 篤
末永 恵子	岡田 多恵子
渡辺 覚	武井 弥生
高田 真希子	野坂 俊弥
米村富士子	佐賀 邦夫
井上 静子	国分 一也
村井厚子	匿名の皆様

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★上記期間内に会費納入やご寄付をされているで、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★HINT は皆さまの会費で運営されています。年会費 5,000 円で、ベトナムでは約 500 人分の給食を提供できます。コンゴで中高生約 2 人分の 1 年間の学費です。

★封筒ラベル一番下にある日付が貴方様が最後にお振り込みいただいた日付です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますとたいへん助かります。

★HINT の活動を宣伝していただいたり、イベント時のボランティアをお願いできれば幸いです。ニュースレターやパンフレットを身近な方に配っていただくことも大切な活動です。ぜひ事務局にご連絡下さい。

HINT 事務局メールアドレス：

hint_info@epopee.co.jp

HINT 事務局からのお知らせ

《活動報告》

● 2016年総会を開催しました

日時：2016年6月25日(土)18:30~19:30

場所：新宿区戸塚地域センター5階会議室

2015年度事業報告及び決算報告、2016年度役員選挙、事業計画、予算計画について話し合いました。総会報告を10~11頁に掲載しております。

● 講演会・活動報告会を開催しました

日時：2016年7月10日(日)13:00~15:00

場所：カトリック松原教会2階信徒ホール

講師：オノレ・カブンディ神父

演題：コンゴの子供たち—映像と音楽の紹介

オノレ神父の故郷であり、HINTの支援先でもあるアフリカのコンゴ民主共和国の子供たちの日常について、映像とともに分かりやすくご説明いただきました。現地で放送されている教育番組や若者たちに人気の音楽など、人々の生活を垣間見ることができました。

● 赤羽教会チャリティーコンサートに参加しました

日時：2016年8月27日(土)14:00~17:00

場所：カトリック赤羽教会

アジアとアフリカの子供のためのチャリティーコンサートは今年も盛りだくさんの内容で大変好評でした。HINTは、支援先の雑貨紹介などを通して活動を紹介、PRを行いました。

● ワイズメンズクラブ国際協会東新部主催「今チャレンジ、子どもをマラリアから守ろう！」に協力しました

日時：2016年10月8日(土)13:30~16:00

場所：YMCA アジア青少年センター

連携協力：国際赤十字・赤新月社連盟

後援：外務省、千代田区、東京YMCA、在日韓国YMCA

HINTの活動にも協力していただいているYMCAを世界的に支援しているワイズメンズクラブ国際協会東新部主催の公開プログラムに協力しました。当会でもご講演(7-8頁ご参照)いただいた狩野繁之氏の「蚊はなぜコワイのか!？」と題する講演・NHKのEテレで子どもたちに人気の谷本賢一郎氏の「ファミリーステージ」(コンサート)は満席。ロールバックマラリア(マラリア撲滅キャンペーン)のための蚊帳の寄付も行われました。

第37回エポペ・クリスマス降誕ミサ & チャリティーパーティー2016 ご案内

G・ネラン神父が理事長の時代に建設された東京・信濃町の真生会館が生まれ変わり、10月に新たな会館が落成しました。そこで本年は、新会館のご協力によりレストランのお食事を特別にご用意。楽しいイベントを企画し、美味しく嬉しいクリスマスを皆様と一緒に祝いしたいと願っております。HINTの会員ではない初めての方、エポペに来られたことのない方、ご友人ご家族のご参加も大歓迎です。ネラン神父を記念して命名された広い会議室「ネランホール」も必見です♪

スペースとお食事の準備の都合上、お手数ですが、「エポペ」のホームページ
<http://www.epopee.co.jp> から、12月15日(木)までに、事前のお申し込みを何卒
よろしく願いいたします。

[地図]



特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局
〒164-0002 東京都中野区上高田 3-24-7 平兵衛内
電話 & FAX: 03-6279-1080 e-mail: hint_info@epopee.co.jp
ホームページ: <http://www.epopee.co.jp/hint>